

# 第 6 回 和歌山県河川整備審議会 河川環境部会要旨

●内容について、審議いただいた際に出た意見を下記にまとめる。

## 【委員の主な意見】

- ・ 地点表記が複雑で分かりづらい。
- ・ 濁度の評価は SS 濃度で 5mg/L 以上、または環境基準 25mg/L のどちらで評価するのか。また、影響がないというふうに記載しているが、変化していると考えられる。
- ・ 底生動物の最終的な評価が、影響がないような表記になっているが、多様性指数の低下などの変化が見られている。
- ・ ダムができ、生息地が分断されたことにより、生息地が消滅したと記載されているが、上流側の生息地が消滅したわけではない、環境は残っている。
- ・ 移植の成功については、個体数だけではなく開花状況等についても確認されたい。
- ・ 物理環境とそれに関連する生物の調査を毎年ではないが、5年から10年に1回という間隔で調査する計画を考えられたい。
- ・ ダム直下の河床の堆積物が増えている。すでに岩盤が見え、河床も低下しており、変化が見やすいので継続して調査を実施されたい。
- ・ 河床物理環境や個体数が少なかった貝類及び鳥類は影響がないと記載されているが、現時点では判断できないと考えられる。
- ・ セトウチサンショウウオは、全国にいたカスミサンショウウオから細かく区分されたため、レッドデータブックの評価も厳しくなる。より一層丁寧に扱うこと。
- ・ ユゴイは汽水・海水域に住むのではなく、降河回遊魚。
- ・ ウグイはダム上流には遡上していないと考えられる。
- ・ 個体群の分断による遺伝的な交流の阻止や、集団の遺伝的な組成の変化については考慮していないことを明記すること。
- ・ 名称等の表記が統一されていない。
- ・ 河床物理環境の長期、短期的影響を区別してまとめられたい。
- ・ 河床物理環境の変化と生物の変化を関連づけて評価されたい。

## 【事務局の対応】

- ・ 各委員とヒアリングを実施し、修正案を再度環境部会に図る。

日 時：令和 2 年 1 月 17 日(金)14 時 00 分～16 時 22 分

場 所：和歌山県民文化会館 3 階 特設会議室